

協議題

- (1) 第96回・第97回簿記実務検定試験の実施報告
- (2) 簿記研究部に係わる事業運営について
- (3) その他

3級

③ 帳簿記入の問題に関して

1. 「仕訳帳の記入方法の () あり、() なしについて」どちらの方法も検定済み教科書で採用されているため、どちらか一方に表記を統一することは難しいのが現状である。そのため採択されている教科書通りに指導して行ってください。
2. 帳簿への記帳方法に重点をおくのではなく、複式簿記の一連の流れを問うことで簿記の基礎基本を確認する出題として、略式での出題とし、混乱を招きやすい相手勘定の記入については、省略している。なお、補助簿への記入について問う出題は、2級での出題を想定している。
3. 検定試験という限られたなかで、複式簿記の一連の流れを問うため、取引を限定し金額も少額とするなど、一部整合性のとれない点もできてきしまう。

2級

<今年度より継続>

①全般について

「電子記録債権」「電子記録債務」「クレジット取引」については2級の出題範囲となる。

②大問2の配点について

2点または4点の配点となる (問題により配点は変更)

③本支店・株式会社の出題について

仕訳・計算問題・勘定記入等で出題する。

④帳簿組織の出題について

証ひょうを表示した出題は今後継続していく。

<新規>

⑤決算の出題について

消耗品の処理について出題する。

各学校で使用している教科書により消耗品勘定と貯蔵品勘定がある。どちらでも正解とするような工夫をして出題する。

⑥決算の出題について

「電子記録債権」「電子記録債務」「クレジット取引」の出題はしない。

1級会計

1. 連結会計では今後の検定も「のれんの計上および償却」「非支配株主に帰属する当期純利益の計上」「子会社の配当金の修正」について計算させる問題を出題していく。
2. 2級の97回検定より「電子記録債権」「電子記録債務」「クレジット取引」が出題範囲となったことから、1級会計は下位級の内容も反映するため、98回以降の1級会計の決算では「電子記録債権」「電子記録債務」「クレジット取引」の出題も考えられる。
3. 98回検定以降より大問の配点の一部を変更する。2点から4点の配点が可能となるよう大問 $\boxed{1}$ を14点から12点へ、大問 $\boxed{2}$ を22点から24点へ変更する。
4. 97回で出題のなかった新学習指導要領に新たに追加された範囲について、今後出題していく。

1級原価計算

1. 製造原価報告書は、次の2つの形式で出題を想定している。
 - ・原価要素別に分類した形式（材料費・労務費・経費に分類）
 - ・製品との関連で分類した形式（製造直接費・製造間接費に分類）
2. 等級別総合原価計算における等価係数は、いずれかの製品を「1」として出題する。